

大 南



2004
APRIL
No.34

contents

館長エッセイ 宇野 史郎	1
特集：図書館が変わります。	2～6
15年度利用統計	7
staff column 島田 直子	8
シリーズ：利用者サービス!	8～9
news news	9
informations	10～12
図書館日誌	12

館長エッセイ

ようこそ図書館へ

皆さんは、大学生になったことを実感していますか。高校時代との違いのひとつに、図書館の存在があります。大学は、学術の研究及び教育の最高機関です。図書館は、皆さんがこれまでの「生徒」から自らが学問を修める「学生」へ脱皮するための架け橋の役割を担っています。皆さんが、これから各々の専門領域で学んでいくことを支援する学習センターなのです。大学の図書館は、膨大な図書・記録その他の資料を備えた「宝庫」です。来館することで、必ず大学生になったことを実感するでしょう。

皆さんには、何かに疑問や興味をもったりする知的な好奇心を大いに湧かしてほしいのです。珍しい物事や未知の事柄に対して疑問や興味が湧けば、何とかして知りたいと思うはずです。日々の生活で疑問や興味をもったことを、どのように処していますか。恐らく、まずは友人に「…について、知っている？」と聞くでしょう。友人が「知らないよ」と答えたら、皆さんはどうしていますか。是非、自分で調べてほしいのです。友人に聞くことも大切ですが、自分で調べてみることも必要です。調べてみようと思っても、「あとで」と考えていることが多いのではありませんか。時間が経過していく

うちに、疑問や興味に思っていたことさえ忘れてしまってはいませんか。調べることのなかに新たな発見があり、さらなる疑問や興味も湧いてくるはずですよ。その時、図書館が皆さんのお役に立つはずですよ。

今年1月に発表された「芥川賞」の受賞作をご存じですか。金原ひとみさんの『蛇にピアス』と綿矢りささんの『蹴りたい背中』でした。二人とも、皆さんと同年代でしたね。「最年少芥川賞」の綿矢さんの「うーん、私の書くスタンス、と言うたら変やけど、これまで職業で書いているという気持ちもないし、自分が作家だとは思えないし、書くことが楽しくて、生き甲斐で書いているというわけでもないんです。…じゃあ何故書いているんだと言われたら、自然にというか、なんとなくというか、10枚くらい書いて立ち止まったら、『ここでやめるよりは最後まで書いた方がいい』と思ってまた10枚書くという、その繰り返しでここまで来た感じなんです。」という受賞インタビュー（『文藝春秋』2004.3）に、自分らしさを追求する今風のわか者らしい新鮮さを感じました。

皆さんは作品を読みましたか。読んでいない方、読んでみたいと思いませんか。時間はたっぷりあるのですから。

宇野 史郎 (うのしろう)

商学部教授
専門：流通システム論
平成16年1月から図書館長
「知的な好奇心を。自分で調べることで新たな発見を」



Uno Shirou

特集

図書館サービスが変わります。

より便利に より使いやすく

貸し出し期間の延長、必要冊数の貸出など

図書館のサービスがこの4月1日から大きく変わります。これは、図書館の新システム移行に伴ないサービス全般にわたる点検の結果、改善されるもので、より使いやすく、親しみやすい図書館をめざしているものです。



現在の図書館は平成7年4月、2号館（現大学院棟・ピアノ訓練棟）から移転し、地下2階、地上4階の単独棟として新しくオープンしました。この間、基本的な図書資料の充実をはかることはもちろん、数次にわたる図書館システムのバージョンアップ、自由利用のパソコンの増設や点字パソコンの導入、AVコーナー資料の充実、夜間開館時間の弾力的運用など時々のニーズに対応してきました。

移転後10年目を迎える今年、開館当初掲げられた学習図書館、研究図書館、保存図書館のそれぞれの機能をさらに追及し、新たなスタートをきります。

<主な変更点>

- ① 貸出期間の延長
- ② 必要冊数貸出の導入
- ③ 開館時間(2・3階)の延長
- ④ ペナルティの導入
- ⑤ 予約、リクエスト等のWEB対応
- ⑥ データベース検索のWEB対応大幅増加
- ⑦ パソコンの増設
(詳細は3頁以降を参照)



貸出期間を2週間に延長します。

(本学学生・教職員のみ)

平成15年度に前期と後期の2回、試験的に期間延長を実施した結果、好評だったこともあり、16年度から基本貸出期間(1週間)を2週間に変更します。対象は本学学生・教職員のみとなります。

なお、これにより長期休業中の特別貸出は夏休み、春休みの期間のみとなります。

貸出冊数は制限しません。

(本学学生・教職員のみ)

従来、基本の貸出冊数は5冊を上限としていましたが、増冊の要望が多く寄せられていたこともあり、今回、制限をなくし、必要冊数貸出の導入にふみきったものです。

なお、この制限撤廃の対象は本学学生・教職員のみとなります。

また、2階参考図書については特別な場合にぎりぎり貸出しができるようになりましたので、カウンターにご相談ください。

返却が遅れると貸出停止になります。

※16年6月から本格実施

貸出図書の返却が遅れた場合は、それ以降の新規の貸出サービスを停止します。延滞図書が返却された当日は、新規の貸出はできません。

このペナルティの導入については5月末までを周知期間とし、6月からは本格実施に移行します。

開館時間が延長されます。利用できるフロアが広がります。

<授業および試験期>

	月曜～土曜		日曜	
	旧	新	旧	新
1階フロア	9:00～23:00	9:00～23:00	10:00～16:00	10:00～17:00
2階フロア	9:00～21:00	9:00～23:00 (2時間延長)	—	10:00～17:00 (新規)
2階 AVフロア	9:00～21:00	9:00～22:00 (1時間延長)	—	—
3階フロア	9:00～21:00	9:00～23:00 (2時間延長)	—	10:00～17:00 (新規)
地階書庫	9:00～21:00	9:00～22:00 (1時間延長)	—	—

<休業期>

月曜日から土曜日までの21時以降、および日曜日の利用できるフロアはこれまで通り1階のみとなります。

検索画面が変わりました。

学内、学外を問わず、図書館のホームページから検索することができます。また、従来は館内のOPAC画面と館外（学外）からの検索では表示される画面のデザインが異なっていましたが、今回から統一されました。

資料の探し方がわからないときは、カウンターにおたずねください。



1 検索条件を指定して、検索を実行します。



2 「検索結果一覧」が表示されます。目的の図書が見つかったら、該当の文字の部分をクリックします。



3 書名や著者名などの「図書目録情報」が表示されます。

※社会福祉研究所、産業経営研究所、海外事情研究所の所蔵も同時に検索できます。

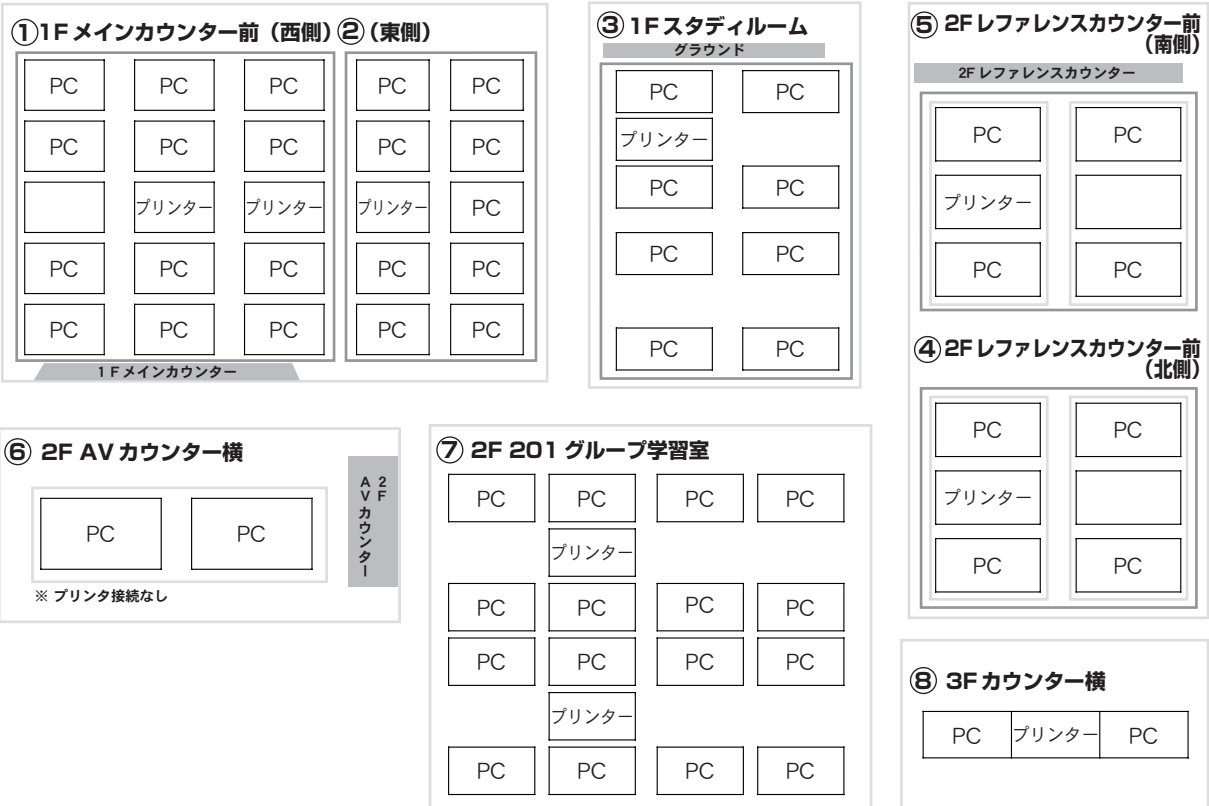
フロアのパソコンが変わりました。

パソコン設定状況

場所	台数	手続き	蔵書検索	インターネット	ワード・エクセル等	CD-ROM	プリントアウト	プリント用紙
①1Fメインカウンタ前(西側)	12		○				○	
②1Fメインカウンタ前(東側)	9		○	○			※③○	※④
③1Fスタディールーム	8	1Fカウンタ申込み	○	※①○	○		※③○	※④
④2Fレファカウンタ前(南側)	4		○				○	
⑤2Fレファカウンタ前(北側)	4		○	※②○		○	※③○	※④
⑥2F AV カウンタ横	2		○				○	
⑦2F201 学習室	16	2Fレファレンスカウンタ申込み	○	※③○	○		※③○	※④
⑧3Fカウンタ横	2		○				○	

〈注〉※①新設 ※②増設 ※③インターネットのプリントアウト可 ※④各カウンタで利用者受取

パソコン配置図



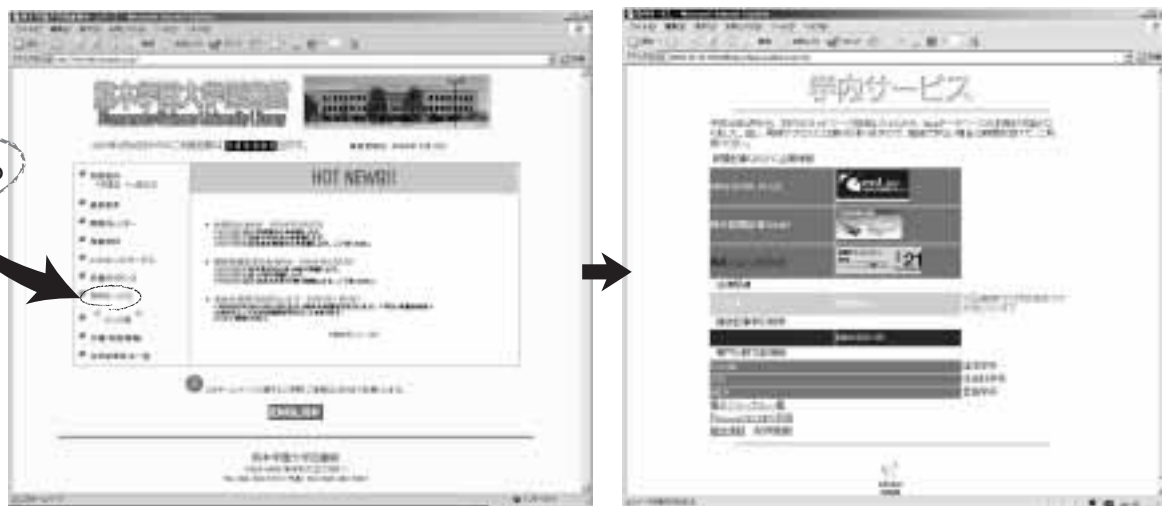
学内のどこからでもデータベースが使えます。

下記のWEBデータベースは、学内でネットワーク接続したパソコンであれば図書館をはじめ学内のどこからでも利用できるようになりました。(アクセス順序は下図を参照)

< >は同時にアクセスできる数

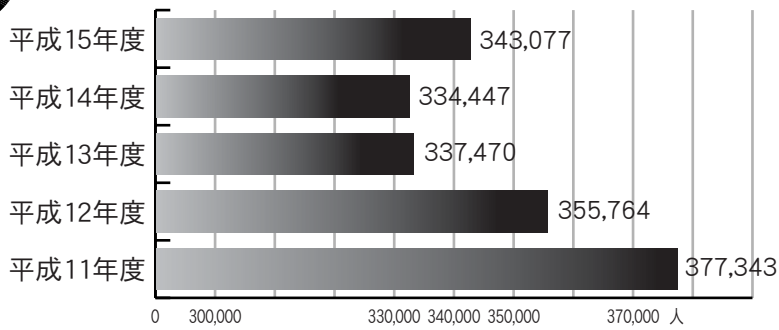
- ① 朝日新聞全文記事データベース (1984～) < 10 >
- ② 毎日新聞全文記事データベース (1987～) < 10 >
- ③ 読売新聞全文記事データベース (1986～) < 10 >
- ④ 日経テレコン21 (日本経済新聞) < 制限無し >
- ⑤ リーガルベース (判例・関係論文等データベース/民・商事等分野) < 5 >
- ⑥ 「eol DB Tower Service」 (有価証券上場企業パッケージ) < 10 >
- ⑦ MAGAZINEPLUS (『雑誌記事索引』、人文社会系の学会年報・学術論文集のほか、一般・ビジネス誌などを加えた国内最大の文献情報サービス) < 10 >
- ⑧ Econlit (経済学文献情報) < 4 >
- ⑨ SSI (社会科学文献情報) < 4 >
- ⑩ MLA (言語学文献情報) < 4 >
- ⑪ OED (Oxford English Dictionary) < 制限無し >

※なお、上記以外で「NACSIS - IR」(国立情報学研究所提供の国立国会図書館雑誌記事索引など約40種のデータベース)、「NACSIS - ELS」(国立情報学研究所提供の電子ジャーナルサービス)は平成15年10月からアクセス制限無しでサービス中。



平成15年度
利用統計

年間入館者総数（5年比較）

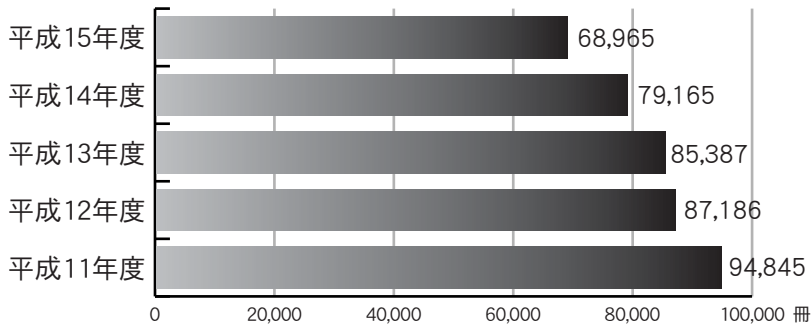


月別入館者統計

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
30,976	38,114	40,234	54,812	10,324	21,444	31,022	29,039	26,939	43,373	8,978	7,822	343,077

年間貸出冊数（5年比較）

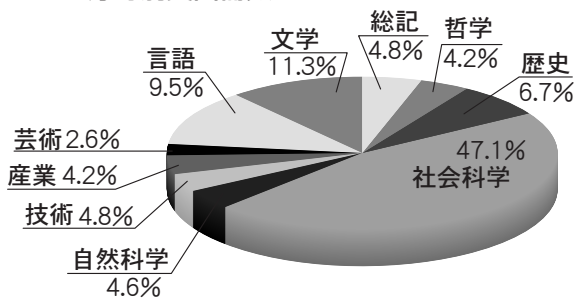


月別貸出統計

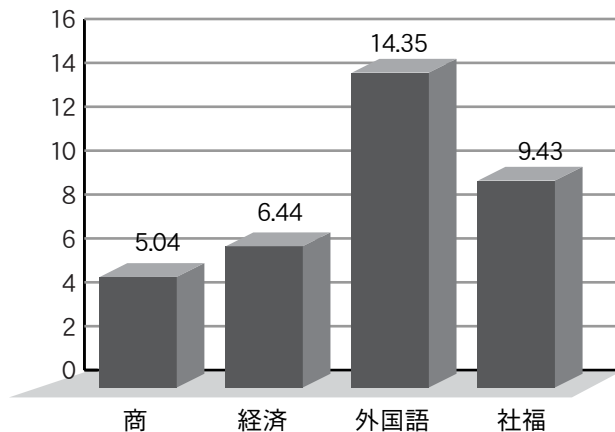
単位：冊

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4,186	6,587	6,857	10,534	2,855	4,225	6,445	6,455	7,076	10,355	2,021	1,369	68,965

分野別貸出冊数



学部別一人あたりの貸出冊数



貸出総冊数	商	経済	外国語	社福
	12,410	14,095	11,049	16,827

※統計算出方法変更により、平成15年度分から商学部、および社会福祉学部は第一部第二部を合わせた数値

シリーズ 利用者サービス①

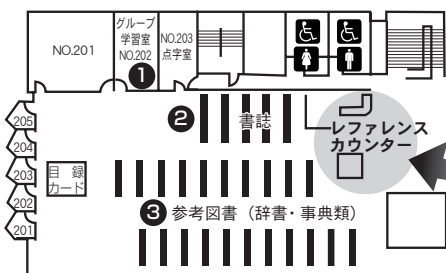
レファレンスカウンター

レファレンスサービスとは、利用者が学習・研究活動をすすめるうえで必要な資料や情報を効率的に利用できるよう相談に応じるサービスのことです。

言いたいことがうまく伝わらなかったり、申込みに戸惑うことがあるかもしれませんが、とにかく気軽にカウンターにお越しください。

<おもなサービス>

- ・館内各施設の利用に関する質問 への回答
- ・図書館の資料検索の補助
- ・学外図書館への所蔵調査、貸借、資料複写依頼等の受付
- ・学外図書館の資料閲覧のための紹介状発行
- ・インターネットやCD-ROMの使用に関する質問への回答



レファレンスカウンターは、2階への階段を上がると、すぐ右手にあります。授業期は午前9時から午後11時まで対応します。

* 利用者の声 *

大学院国際文化研究科

● 松浦 美和

Q. レファレンスカウンターを利用し始めたきっかけは？

以前通っていた大学の図書館とは検索の方法が違っていたので、何度もお尋ねしましたが、司書の方が丁寧に説明してくださるので気兼ねなく質問が出来て、とても利用しやすく感じました。

staff column

心はアナログ 頭はデジタル

子どもの頃から本で長いこと過ごせるタイプで新刊書など結構知っている方だと思っていた。ところが、図書館の仕事を始めたらそれは海の中の筏だと気付いた。毎日毎日、様々な種類の本・雑誌・CD-ROMがどっさり届けられる。どこでこれらの本が作られてどんな経緯で利用者の目に留まるのか。怒濤の勢いで出版される本達ときちんと向き合える確率、心に残る本の確率ときたら…。速読法のチラシを横目に、心で読めなくなるかもしれないと、逡巡する。心に残る本とどれだけ出会えるだろう。読みたいと思いつつ縁のない本も

ある。自分で本を選んでいるつもりでも、それは運命ではないかと「どっさり」を眺めながら思う。

人間って本来アナログで、将来もそのままではないのかな。ちょっと古いけど「24時間は闘え」ない。だからこそ効率よくデジタルものを使いこなす必要がある。心で読みたい本は初版本にこだわったり美しい装丁に癒されたり、時間をかけて楽しみたい。しかし、仕事や研究的な調べものはパソコンを使って、膨大な時間と量の中からいち早く答えを探し当てる。心はアナログ、頭はデジタルと使い分けていこう。

ISBN (国際標準図書番号) をご存知だろうか。書籍固有の10ケタの番号で、たいてい裏表紙に印刷されている。ちなみに、日本で発行される書籍の番号は4で始まる。仕事のうえでまたデジタルの重要度が格段に増す。特に洋書の発注データ作成の場合、まず申込書の文字が達筆すぎて読めない。カタログさえも実際の書名とは表示の順番が違っていたり省略してあったり、どれがシリーズ名なのかわかりにくかったりする。国立情報学研究所のデータにもない、書店はおろか発行所のホームページにも掲載されてない(新しすぎる?) タイトルも、ISBNで検索すれば「なあんね。発行所が間違っるとるたい」などと解決できるのである。

(総務係 島田 直子)

Q. これまでの利用状況は？

研究のための関連図書や就職に関するものをお借りすることがありますが、さまざまなテーマについて多くの本が揃っていると思います。CDコーナーには私の好きな音楽のCDもあるので、休憩にはとてもよい場所だと思います。地下ホールで開かれるクラシック音楽コンサートも私のお気に入りです。毎回楽しみにしています。

Q. 利用してみてよかったことは？

司書の方がとても親切に対応してくださいました。CD-ROMもいろいろなものがあるうえに、パソコンの使用方法も分かりませんでした。その都度丁寧に教えてくださいました。文献複写依頼のときはメールでこまめに知らせてくださって、とても利用しやすく感じています。

Q. 大学院ではどのような研究を？

林日出男先生のもとで、英語学

習者の動機、学習スタイル、教授法が語学習得にどう影響しているのかを研究テーマとしています。おもに統計学を用いますが、背景となる理論は心理学から取り入れています。心理学の論文を取り寄せているのはそのためです。

Q. 何か要望はありますか？

今は特にありません。以前は不便に感じたこともありましたが、NACSISが使える環境に改善されたようなので、問題はないと思います。

news news

15年度学生懸賞論文入選作決まる

平成15年度の学生懸賞論文は、15年9月末日に締め切られたのち、応募論文の専門分野の教員により最終審査が行われました。その結果、応募総数19編のうち入選5名、佳作3名が決まりました。なお、特選は該当者がありませんでした。

入選者の論文は16年2月、「平成15年度学生懸賞論文集」として発行されました。



〈入選〉

法花津 美輪（商学科3年）：デュアルユーステクノロジーに関する一考察

山本 隆博（商学科4年）：マーケティングと体験主義消費分析

吉里 裕子（経済学科4年）：地域経済活性化に果たす中小企業の役割

藤田 真幸（社会福祉学科3年）：児童虐待と子育て支援—母親の姿から

宮本 真弓（第二部社会福祉学科4年）：スクールソーシャルワーク

—子どもが主役である学びの場づくりをめざして—

〈佳作〉

澤村 開朗（経済学科4年）：産学官連携と地域経済

田邊 千香子（国際経済学科4年）：日本マンガとハリウッド映画に関する

考察—マンガ人気を引き起こした繁栄と衰退の因果関係について—

小林 佳代（英米学科3年）：色は語る—“The Birth-mark”における「赤」と「青」—

県大学図書館協議会セミナー 実務者研修会開かれる

2月9日午前10時30分から、世話館である本学図書館を会場に熊本県大学図書館協議会セミナーおよび実務者研修会が開催されました。当日は県内の国公立の大学や短大、高専から22人が参加。これは、熊本県大学図書館協議会が主催して毎年、情報交換や職員の資質向上のために開いているもので、今年で9回め。

午前は児童文学作家であり、「熊本市の学校図書館を考える会」代表の廣瀬賜代氏（ペンネーム：たつみや章）が、「大学図書館は敷居が高い？…小中高図書館と大学図書館を結ぶための一試論」と題して、市内学校図書館の現状と大学図書館に求められる要望等について講演。午後は濱崎修一氏（九州大学附属図書館情報管理課長）が「大学図書館の新たな協調に向けて」と題して図書館界を取り巻く最新の動向を紹介しました。

大型コレクション

平成 15 年度は下記のような大型コレクションを購入しました。

利用、資料内容等については、図書館 4 階雑誌係（内線 1713）までお問い合わせください。

< I > 横浜正金銀行（マイクロフィルム版） 第 3 集～第 7 集（175 リール）

< II > Goldsmiths' - Kress Library of Economic Literature

－ゴールドスミス（ロンドン大学）、クレス（ハーバード大学）

両文庫所蔵社会科学系学術図書集成－（マイクロフィルム版）

Unit 16 - 20 (no.751- no.1000)

< III > 一橋大学社会科学古典資料センター所蔵「カール・メンガー文庫」

（マイクロフィルム版）第 4 セクション第 1 ユニット・第 2 ユニット

< IV > 対馬宗家文書第 II 期「江戸藩邸毎日記」（マイクロフィルム版）第 2 期

< V > Complete State Papers Domestic, 1654 - 1670（マイクロフィルム版）

Series 1（Unit 1 - 6）

“気軽に雑誌” 1 階フロアに新しい雑誌

16 年 4 月から、図書館 1 階中央フロアに新しく購入を始めた 14 種類の雑誌を置くことになりました。

これは、従来から 2 階および 3 階に配架してある雑誌類とは別に、利用者の皆さんに気軽に手にとってもらい、図書館により親しみを持ってもらうことを目的に置くものです。

ファッション、映画、旅、アウトドアなどいろいろなジャンルから選んでいます。一定期間は種類の検討も予定しています。

なお、これらの雑誌は、長期保存の管理対象外となりますので、バックナンバー等利用の際はご注意ください。

FINEBOYS（ファインボーイズ）

日之出出版
月刊（毎月 10 日発売）
若い男性向けのファッション情報誌

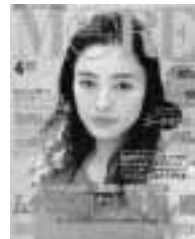


MEN'S CLUB（メンズクラブ）



アシエット婦人画報社
月刊（毎月 10 日発売）
ヤングビジネスマン向けのファッション情報誌

MORE（モア）



集英社
月刊（毎月 28 日発売）
20 歳代の女性を主対象にした生活誌

Vivi（ビビ）



講談社
月刊（毎月 23 日発売）
20 歳前後の女子大生、OL をメインターゲットにした新生活術提案誌

BE-PAL（ビーパル）



小学館
月刊（毎月 10 日発売）
自然趣味生活のためのライフ・スタイル情報誌

BRUTUS（ブルータス）



マガジンハウス
月刊（毎月 15 日）
商品情報ではなく消費情報を提供する

ku:nel（クウネル）



マガジンハウス
隔月刊（奇数月 20 日）
食・インテリア・ライフスタイル情報誌

MONO（モノ マガジン）



ワールドフォトプレス
月刊（毎月 16 日）
ライフスタイルを提案するモノ情報誌

きょうの料理



日本放送出版協会
月刊（毎月 16 日発売）
NHK 総合テレビ「きょうの料理」のテキスト、料理雑誌の定番のひとつ。

じゃらん (JALAN)



リクルート
月2回刊(1・15日)
旅行・レジャー誌。
タイトルは「散歩する」
「旅行する」という意味の
インドネシア語

スクリーン (SCREEN)

近代映画社
月刊(毎月21日発売)
老舗の洋画雑誌



ダ・ヴィンチ



メディアアファクトリー
月刊(毎月6日発売)
新刊や話題の本とコミックを
紹介する書籍情報誌

熊本ハイカラ

熊本ハイカラ
月刊
熊本県および近県の情報を
提供する
地元発信の生活提案誌



Tarzan(ターザン)



マガジンハウス
月2回刊
(第2・第4水曜日)
スポーツ、ヘルス、アウ
トドアなどの情報を提供。

平成16年度ガイダンスのお知らせ

【学部学生】

新 入 生

※初歩的な図書館の使い方を説明

〈part1〉図書館オリエンテーション

実施日：平成16年4月7日(水)

時間・場所：新入生オリエンテーションプログラムを参照

内容：図書館紹介ビデオ『図書館へ行こう!!』の上映

〈part2〉図書館ガイダンス

時期：平成16年4月～6月

時間・場所：授業中に先生から予告があります。

内容：蔵書検索の実習、館内ツアーなど

2年次以上(1年次も含む)

ステップアップガイダンス

論文やレポート作成のための資料収集や検索の実習

時期：新入生ガイダンスと並行して実施(5月中旬～)

内容：ビデオ『新・図書館の達人』、データベースでの資料収集法等

実施形態 ①授業科目単位(授業中に先生から予告があります)

②個人単位(図書館2階で随時受付)

【大学院生】

新 入 生：

平成16年4月中旬に一斉ガイダンス。

2年次以上(1年次も含む)：

図書館2階レファレンスカウンターで随時受付

平成16年度 学外者カード発行のお知らせ

平成16年度の図書館通年利用を希望される方は、次の要領で図書館カード発行の手続きをお取りください。カードは後日郵送となります。

- ・受付時間：月曜～土曜 9:00～21:00
- ・申込みに必要なもの：本人であることを証明できるもの
(免許証・保険証・パスポート等)
- ・受付期間
 - ①卒業生：3月を除く通年
 - ②卒業生以外の利用者：4月～5月および10月
- ・手数料：卒業生以外の利用者のみ 1,000円

平成16年度 学生懸賞論文募集要項

応募資格：本学学生

※大学院生・研究生・専攻科生・科目等履修生は含まない。

論 題：自由

原稿枚数：・原稿用紙400字詰め20枚程度

(ワープロ仕上げで8,000字程度とする)

・欧文の場合、A4用紙ダブルスペースで10枚程度とする。

・中国文、韓国文の場合は、それに相当する程度とする。

締 切：平成16年10月8日(金)

論文提出先：図書館

審 査：図書館委員会と専任教員の審査にもとづき、教授会の議を経て決定する。

結果発表：平成16年12月上旬(予定)

表 彰：優秀な論文には、賞状・賞金を与えて表彰する。

ただし佳作は賞金のみとする。

〈表彰賞金〉特選100,000円 入選50,000円 佳作20,000円

〈表彰式〉特選、入選の論文執筆者には表彰式当日、論文成果等の発表の機会を設ける。

〈論文集〉特選、入選の論文は「論文集」として発行する。

〈注意事項〉

1. 論文は、一人一編とする。(厳守のこと)
2. 論文は焦点を絞って作成し、提出の際には論題を明記すること。
3. 参考文献は、すべて末尾に明記すること。
4. 引用文は、出典を頁数まで明らかに示すこと。
5. 原稿の表紙に論題・氏名・学科・年・組・学籍番号を明記すること。

懸賞論文に挑戦を!

論文作成のためには、資料収集の方法や執筆のルールを知ることが前提です。1階中央フロアには論文や卒論作成のための参考図書を集めた「特設コーナー」があります。また、2階レファレンスコーナーでは調べるためのお手伝いをします。

図書館では皆さんの積極的な相談をお待ちしています。気軽に声をかけてください。そして、是非、懸賞論文に挑戦を。

図書館日誌 平成15年11月～平成16年3月

見学者

- 15.12.6 大津高校 40名
15.12.16 千原台高校 9名
16.2.18 日比谷学園高等部 5名

16.2.25～2.26

熊本YMCA日本語学院 28名

行事

15.11.23 休館(推薦入試)

15.12.12 学生懸賞論文表彰式

15.12.15～16.1.5

冬休み特別貸出

15.12.27～16.1.4 年末年始休業

16.1.17～1.18

休館(大学入試センター試験)

16.1.25

特別開館(後期定期試験)

16.1.26～4.13 春休み特別貸出

16.1.28 図書館委員会

16.2.8

休館(全学部全学科入試)

16.2.9

熊本県大学図書館協議会セミナー・実務者研修会(※本学世話館)

16.2.11～2.14

休館(一般入試A)

16.3.4 図書館委員会

16.3.7 休館(一般入試B)

16.3.31 休館(年度末調整)

出張・研修

16.2.3

日販図書サービス図書館セミナー

編集後記

本誌は、1987年10月に「熊本商科大学・熊本短期大学図書館報」として創刊。爾来17年、時々図書館スタッフの地道な努力で毎年2回つつがなく発行されてきましたが、今回、初めてのリニューアルに挑戦しました。より読みやすく、親しみやすく、これからも「図書館の今」を発信し続けます。

大楠 第34号 2004/05/13

編集・発行/熊本学園大学付属図書館
〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号
TEL(096)364-5161 FAX(096)362-5967
<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>